

## 令和7年度第2回古賀市図書館協議会会議録

- 会議名称： 令和7年度2回古賀市図書館協議会  
日 時： 令和8年2月25日（水）14時00分～15時00分  
場 所： リーパスプラザこが中会議室  
主な議題： 1) 令和7年度利用状況報告(4～1月)について  
2) 令和7年度事業実施報告(7～1月)について  
3) 令和8年度運営方針（案）について  
4) その他  
傍聴者： 0名  
出席者： 久池井良人会長、轟良子副会長、河野美希江委員、安部俊伯委員、  
藤本美智子委員、服部哲治委員、松村志穂委員、中村素明委員 以上8名  
欠席者： なし  
事務局： 5名  
配布資料： 次第  
1) 令和7年度利用状況報告(4～1月)について  
2) 令和7年度事業実施報告(7～1月)について  
3) 令和8年度運営方針（案）について

### 1 開会のことば

- ・事務局が本協議会は古賀市情報公開条例に基づき公開すること、会議の概要について市ホームページで公開することを説明。
- ・事務局が委員の出席状況を確認し、古賀市生涯学習センター条例施行規則に基づき会議として成立していることを報告。

### 2 部長あいさつ

### 3 会長あいさつ

### 4 協議等

#### 1) 令和7年度利用状況報告(4～1月)について

(会長) 最初に令和7年度利用状況報告(4～1月)。それから併せて令和7年度事業実施報告(7～1月)と連続して説明していただいてその後協議を行いたい。

(事務局) 事務局より資料の説明。

#### 2) 令和7年度事業実施報告(7～1月)について

(事務局) 事務局より資料の説明。

(会長) 委員の皆様ご意見がありましたらお願いします。

(委員) 資料5ページのワークショップ「アンパンマンマスコットづくり」について、去年参加してすごく楽しかったですので、今年も申し込もうねと言っていたら、

すぐ申し込みが埋まってしまってもう申し込みませんとなって、残念なんですけれどもちょっとうれしいみたいな気持ちでした。参加出来た知り合いの方から「よかったよね」「こういうのがちょこちょこあったらうれしいよね」という話があって、中々子どもを連れてこういう催し物が近場で無いからすごく喜んでありました。

次に資料7ページの「ハッピーハロウィーン」について、ハロウィーンのブースが設置されたのは今年度からですか。

(事務局) 今年度からです。こがめルームで写真撮影ということで場所を設けました。

(委員) 図書館でハロウィーンをやっていることを知らなくて、なんかハロウィーンやっているよと、こがめルームにブースがあるということで写真を撮らせて頂きました。何か詳しい方は、仮装して来られていて、多分小さいお子さんがおられるお母さん達が多分もっと来たのではないかなと、お祭り事というか、喜ばれるイベントじゃないかなと思いました。

(事務局) 図書館の入口も風船など飾りつけまして周知しました。

(委員) 図書館の玄関は、クリスマスにはタペストリーがあったり、何か季節を感じられるのも図書館の良さかなと思いました。

あとは今後の予定のところにあります、「ブックリンピック」のところですね、この間子どもと図書館に行った時にメダルが入口のところに置いてあるのを見て「お母さん金メダル本物だよ」と言って、これほしいから本を沢山読もうかといって、動機は不純ですが、本を読むんだったらいい動機になったなと思ってですね、今考えたらすごく楽しい試みだなと思いますし、そういう試みでうちの子は本を読んでいるんだよねと話したら、周りのお母さん方は「そうなんだ」と、結構ポジティブな反応が返ってくるので、試みはすごくいいのでどう周知されていくのかというのが、連結すると、色んな問題が解決していくのかなと思いました。以上です。

(会長) 子ども向けのイベントはとても好評ですね。大事なことは子ども達が来たら必ず親御さん達もいらしている。そして親子での参加となって、広がりが出てくるんじゃないかと思います。

昨年おみくじも大変好評でしたが、今年はいかがでしたでしょうか。

(事務局) 昨年度は、正月終わってすぐの日程でしたので、返却される方とイベント参加の方で列がつづき大変込み合いました。今年度は、おみくじのイベントの日程をずらして実施しました。当日1,000人を超える来館者があり、好評のうちに終わりました。

(会長) イベントで返却の方、借りる方と2重の効果が出ました。他にありますか。参加してみたよっていう話があれば、

(委員)           うちもですね、孫がおはなし会に参加しまして、小学 1 年生だったので、「小学生のための こわ〜いおはなし会」をすごく楽しみにしていました。やっぱり子どもって怖いお話。こがめルームのところがすごく一杯だったので、小学生の為のイベントを設けるといいなと思いました。おはなし会はどうしても未就学時の方が多いので、大きな子にとっては中々行くというのがないと思うので、あれはいいなと思いました。

そして、普段「赤ちゃんおはなし会」「小さい子のおはなし会」は水曜日にあっていますよね、ここに「赤ちゃんおはなし会 Sunday」というのがありますよね、これも働くお母さん達には、日曜日しか来れない方には。今働いているお母さん多いですよ。水曜日はちょっと少なめですね。こういう取り組みもすごくいいなと思いました。

(会長)           曜日を变え開催とかですね、その利用者の層に合わせるということですのですごく大事なことだろうと思います。ハロウィンとかこわ〜いおはなし会が非常に好評というんですが、以前夜の図書館の見学というのもありましたね。色んな形で取組をされていると。

(事務局)          夜間で図書館のイベントもあるところありますが、対象や内容など色々ありますので研究していきます。

(会長)           今子ども向けのイベントのことがあります、大人対象のイベント等ありますが、そのへんのところいかがでしょうか。今回落語も取り上げられたということで。他のセクションも落語をされていると好評だったと聞いておりますがいかがでしょうか。

(事務局)          子ども関係については、例として4月の子ども読書の日関係イベントなど力をいれております。ここで秋の図書館 Week はどちらかといえば大人向けのイベントを行っております。今年度は大人向けのイベントとして、6月に教養講座として文学講座、9月図書館 Week では落語ほか幅広い年代の方を対象に事業を行いました。

(副会長)          私は昨年10月に宮若市に呼ばれて、高齢者向けのイベントで文学講座の話をしてくれと言われて、古賀市で以前実施した「北九州文学散歩」みたいな話をしたんですけれども。そこは図書館協議会で、「子育てに力を入れているんですけれども高齢者にも色々してほしい」という要望が出て、初めて実施したそうです。今日午前中から古賀市の図書館を見ていたら、高齢者の方が沢山おられました。貸出冊数も60歳から69歳が20.8%と2番目に多いので、中々貸し出しに結びつかないかもしれないですけど、やっぱり図書館にしょっちゅう来るのがこの年代だと思うので、例えば読書会をすとか、文学講座をすとか、そういった高齢者が集える場を考えるとすることも重要ではないかと思います。その年代にあっている例えば著名な図書の著者を呼ぶとか、昔40年前ベストセラーになったけれ

ど、今度は自分がその年代になって読んでみたら全然違う視点で読めたとか、結構読書会は色々高齢者になっても盛り上がるので、取り組みとしてはいいのではないかなと思います。読書会というのは色んな形がありますけれども、それぞれお勧めの本を持って紹介しあうというのものもあるし、あるいは同じ本をそれぞれ読んできて感想を述べあうとか、例えば親子で子どもの本を読み合う親子読書会とか方法は色々あると思います。一番最初はまず自分の一番好きな本を持って紹介し合おうというような形で始めるのがし易い気がします

(会長)

今読書会のお話がありました。昔図書館で、子ども図書館 2000 ビブリオバトルをしました。本を皆さん紹介しあって誰の本が一番おもしろかったかと。ただあの時意見を言ったのですが、誰のが一番良かったかと優劣がついて、誰のとなった時には、他の人はちょっとがっかりですか。しかも手を挙げて投票するものですから。私は今のお話があったように、読書会みたいな交流も大事だと思うんですね。読書は読んだ後にやっぱり他の人と交流することによって、読みが深まるということですか、楽しさを覚えるというのがあります。個人だけで読んだらもうその中で完結するというのがあります。

古賀市の図書館も6月に文学講座をされていて毎年されていますね。色々されていることをアピールしていくと、それぞれの層にですね、年齢層にヒットするものがありますよね。ぜひ継続的なアピールをお願いしたいと思います。

それから、せっかく色々な取り組みされているのと思うこと。ニュースをみると、どこどこの図書館でこのような取り組みをしましたというのがありますが、あれは古賀でもやっているのと思うことがあるんですね、上手なアピールといえますか、今まで利用したことがない方に対するメッセージになるかと思えます。他いかがでしょうか。

(事務局)

周知として広報や SNS、ホームページなどで情報発信を行っています。

(会長)

医療講座も非常に充実してシリーズ化しておりますので。福岡東医療センターも本腰をいれてお話をされていて、市民の方の関心が高いなと思います。やっぱり図書館として様々なところにアピールしているんだという、こういうふうな積極的な姿勢を見せていただくんですね、利用してみたいとか、図書館は大事な存在だというふうに思えるのではないかと感じております。はいどうぞ

(副会長)

私の住んでいる市では認知症に優しい図書館ということで講座がありました。法律が改正されて、図書館もそういった認知症でも共生が出来ていける、そういった社会にしなきゃいけないらしくって、その一環としてその認知症のことを皆さんに知っていただく、そしてこういうような本がありますというようなことをお知らせする、そんな感じの講座でした。

(委員)

それは福祉関係の団体との連携ですか。

(副会長) 市役所のそういった部署と図書館と一緒にされた講座です。市役所とコラボするのも大事だなと思います。

(会長) この後、来年度の話がありますが、来年度の中でもですね、ぜひ今のお話しされたことを踏まえて取り組んで頂いたらと思います。よろしいでしょうか。お願いします。

(委員) はい、「多言語読書会」について内容が想像つかないですね。翻訳とかですか。

(事務局) 高校生が読み手となって、英語やその他の言語で絵本の読み聞かせを行いました。まずは普通に日本語で読んで、そして違う絵本は英語や他の言語で読むなど行いました。いろんな国の方いろんな言語の方が参加されました。まちづくり推進課との共同事業で行いました。

(会長) 図書館も外国語の絵本のコーナーがありますね。

(事務局) 先程説明しました資料にもありますが、今回「多文化コーナー」を新設しました。色々な言語の本を揃えています。

(会長) 外国語の絵本は子どもはわからないだろうというのは大人の考えで、外国語の絵本を外国語でお話しされていて子どもが一生懸命見ているというのを私見たことがあります。意外と垣根は子どもの方が低いのではないかと思うんですよ。

(委員) 報告で、社会実験「古賀駅前まるごと遊び場プロジェクト2025」でブックリサイクル及び電子図書館体験会を実施とあります。これを知らなくて知っていたら行こうかと思いました。2月1日に「生涯学習笑顔のつどい」がリーパスプラザ多目的ホールで報告会があり、各団体から活動報告がありました。その中で、「本で街を面白く」というテーマで活動をしている団体の発表がありました。全く知らなくて、一応こういうことがあったと地元の福祉会の定例会で発表したら、結構反響というか、興味のある方がいたんで、同じ古賀市が主催した「古賀市生涯学習笑顔のつどい」で取り上げられるなら、図書館でもですね、ちょっと紹介して頂ければいいんじゃないかと。本を買ったり借りたり出来るようになってる。本を置けるようなスペースがあると。行ったことないんですけど、そういうのを、皆さんにお知らせしたらいいんじゃないかと思います。

(会長) イベントは古賀市のLINEで周知されているのですかね。

(事務局) 古賀市公式LINEや、古賀市立図書館のホームページやSNSなどで周知しています。

- (委員) 資料で参加人数が書いているイベントと書いていないイベントがあります。
- (事務局) 例として、9月28日ワークショップのイベントでは何人参加と人数が把握できますが、人数が把握できないイベントでは人数の記載をしておりません。
- (委員) 時々こういう本を借りるんですけども、年度によって更新されていくわけですけど、最終的に処分すると。ブックリサイクルという形になると。この前利用した人の話によると、まだ書架に余裕があるのに、中々なかったの、出来たらもうちょっと数年前の分も書架に出していただけると、今度ついでがあつたら聞いてくれと言われたから、そういう要望があつたりします。私個人的には、福岡県を中心として郷土資料のコーナーによく行くんですけども、もうちょっと充実していくとうれしいです。
- (会長) 郷土資料、非常に関心がある方にはと言う話ですね。そこにしかないからですね。
- (委員) スペースの問題とか色々あると思うんですけど、場所によっては県の北とか南とか分け方色々あるんでしょうけれども、結構置いて頂いているので見るのがし易いということがあるので、もうちょっと置いて頂きたい。
- (副会長) 私は今地元の郷土会で活動しているんですけど、私達の年齢になったら、やっぱりこういったことを知りたいと思うので、よかったら、ぜひ古賀の郷土の歴史みたいなのを、前は郷土会があつたみたいですが、今日参加されているグループの中に郷土会の名称が消えていたから、古賀市って古墳や色々な文化財があるから、郷土会をやられると面白いのではないかと。
- (委員) あると思いますよ。
- (副会長) そうですか。そしてぜひ充実してほしいと思っています。結構やってみると面白いですよ。今日この会が終わったら、小倉城幕末炎上とって、小倉藩は幕末に小倉城に自分で火をつけ逃げたんですけど、その話を皆でするんです。なぜ火をつけなければいけなかったんだろうと今でも思っているんですけども。
- (委員) 高杉晋作の時でしょう。
- (副会長) そうです。
- (会長) 古賀の図書館も、郷土コーナーは結構力を入れてされていますので、今のように入れられる分は充実をお願いしたいと思います。色んな意見が出来て来ますね。聞いていて参考になります。

私から1つですね、社会実証実験ですけども、これは図書館によっては、地方によっては、町中図書館みたいなどかされているとことがありますね。色んなお店と連携して、それぞれのお店の中に小さい図書のコーナーを作ってですね、町を歩きながら、どここの酒屋さんに行ったら酒の本が置いてあるとか、みんなで盛り上げていきましょう。図書館の分館じゃありませんけども、みんなで町中に小さい図書館がありますという取り組みをされているところもあります。

意外とですね、今利用状況とかは低迷状態みたいな表記がありますけれども、やり方によってはですね、図書館がその地域の起爆剤ですかね、色んなものの核になってされているところもあります。だからまだまだですね可能性は十分あるんじゃないかなと思っております。今ですね、事業実施報告の中の具体的な取り組みで非常にお話が盛り上がっておりますが、利用状況等もうこれはなかなか変えることはできませんが、それについてもお願いしたいのですが。

電子図書館は、非常に伸びているというところですが、ただ電子図書館の利用数と通常の本の利用数は、数が全く違いますので、そこら辺は十分考えておかないとですね、電子図書館がどんどん利用されていると思いますが、数値は普通の本のほうが大きいです。ただ図書館のこういう特性、これはやっぱり大事にしていくと新しいことが出てくるのではないかと思います。

残念なのは電子図書館というコーナーは出来ないんですよ。目に見えないものですから。図書館に行ってもあることがわからない。そして契約が終わったら消えてしまう。これは利用する権利を図書館が持っているわけで、図書館財産として持っているわけではない。そこら辺のバランスを取りながら充実を図っていく。またお気づきの点は、後からでもお受けしたいと思います。

### 3) 令和8年度運営方針（案）について

(事務局) (事務局から令和8年度運営方針案の説明。)

(会長) 令和8年度古賀市立図書館の運営方針について説明頂きました。

(副会長) マイナンバーカードの図書貸出は増えてきているのですか。

(事務局) 増えてきています。図書館利用者カードで貸し借りしていますが、今後はマイナンバーカードで図書の貸し借りが出来ます。

(会長) 利点とすれば、マイナンバーカードを持ってきていけば、図書館利用者カードは持ってなくてもいいということですね。他にありましたら。

(委員) 先程話がありました周知の活動について。私は個人的にですけど、インスタグラムとか利用して情報収集することが多いんですけども、周りの職場にいる大学生とかに聞くと、お店を探すのも、昔は食べログとかでしたが、今はもうインスタグラムとかで探していると。調べたいものによって、インスタグラムだったりXだ

ったり、LINE だったりと使い分けていると言われていたんですね。私は「古賀でこそだて」という、古賀市のインスタグラムをさせてもらっているんですが、結構それでイベントとかを紹介していると、リアクションとかあったり、今子育て世代の方と、ある程度 40 代から 50 代だったりで、インスタグラムで情報収集される方がいるのかなと思いました。

SNS の良いところは、ちょっとした情報だけ出せるのがすごくいいところかなと。図書館の取り組みとかも、もっと広がればいいのになと思います。

それこそ、子どもがこの間オリンピックきっかけで、国旗に興味を持って、国旗の本はあるのかなと思って、図書館に行ってレファレンスサービスの方に「国旗の本ありますか、こういう理由で探しているんですけど」と話したら、案内してくれて「こういうのがあります。こういった本もありますが今貸出中みたいですね。」とか色々対応してくれて、ありがたかったですね。そういった話を他のお母さんとかに話したら、「そういったことも聞いていいんだ。」のような反応があつて。図書館を当たり前利用している人には、レファレンスサービスは当たり前ですけど、図書館をあまり利用されていない方には、そういうサービスがあることがそもそもわかっていないと。図書館は静かにしていて、本を借りたらすぐに帰らなければいけないと思っている方もやっぱりいらっしゃるのかなと思って。そういったところを SNS とかで、可視化していかれるのがいいのではないかと思います。その辺、イベント毎とかでポスターも毎回みごとじゃないですか。プロの方が作っているのかなといつも思っていたんですけど、職員の方が作っているとかだったので、すごく相性がいいのではないかと思います。

(会長)

今 SNS の活用ということがありました。今観光でもやっぱり SNS で見たよって言って、これも全然注目されなかったとか、今沢山ありますよね。図書館の取り組みも確かに今おっしゃるように SNS を出して、それがまた広がってということになれば、今まで来られなかったからも沢山いらっしゃるのではないのでしょうか。ちょっと可能性が開けてくるということですかね。それから図書館の利用の仕方もレファレンスサービスこんなことを聞いていいと思わなかったと。またある面ではですね、SNS とか非常に駆使している方もあれば、スマートフォンでも予約もでき、ホームページを通してそういうこともできるのかとか。新刊を見て、予め読みたいと思った方がきちんと申し込むことができるとか。色んな普通に当たり前でいることを知らなかったとか、やっぱりそういう利用の仕方です。そういったところを丁寧に教えていくといいんじゃないかと思いますね。

(副会長)

確かに図書館の利用方法っていう講座とかもいいかもしれませんね。委員さんがされているみたいなことを是非教えて欲しいと思うんですけど、今日それこそ、図書館新着の図書コーナーがあるじゃないですか。そこにこういう各図書館員のお勧めの本っていうのが入っていました。図書館員ってこういうふうに本の紹介をして、これは 10 年前からある雑誌で連載しているものが、今度 2 冊目として本になったんですけど、こういう仕事もするんですよ。「これは何か」とか、「何か面白いも

のないですか」と言われた時に、こんな面白い本（具体例）がとか、こんな本があるよって、すぐ紹介出来るように皆それぞれ頑張っているの、この古賀市立図書館の司書の人達、みんな熱心で親切な人が多いので、気軽に聞いていいんだっていうことをぜひ皆さんに広げて頂きたいと思いました。

(会長) 活用したくなるということ。如何でしょう。利用していて気が付いてこんなことをしたらもっと良くなるんじゃないかということを出していただきたい。はいどうぞ。

(委員) 先程、館長さんが今度空間の雰囲気づくりと、館内の雰囲気づくり、それからあらゆる世代に利用し易い図書館とおっしゃっていたんですけども、私の娘がすぐここ図書館の近くに住んでいまして、子育てしているんですね。2人男の子なので、やはり図書館に来るのは躊躇するわけですよ。やっぱり静かな所に子どもを連れて行って、賑やかにするのがと、本を借りたい気持ちはあっても実際図書館に行くのは敷居が高い。どうしても結局本を借りる前に子どもをと言う感じで、中々借りれないという方が結構いるんですね。周りの私の知っているお母さん方のそういう意見を聞いたことがあって。去年の秋頃にテレビの番組の特集が面白かったんですけども、にぎやかな図書館とあったのでちょっと見たんですね。そしたら岐阜県岐阜市の図書館で、「おしゃべりOK、賑やかな図書館を目指します」という特集だったんですね。私すごく衝撃だったんですね。そういう図書館が今あるんだっていう、結局やっぱりそこはもちろん若い世代の来館者数も増えているし、実際利用者も増えてきて、言われていたのが「本に関心がある人だけ来るのが図書館ではない」ということだったんですね。「なるほど」と思いまして、私も図書館利用に関してはやっぱり本が好きだからとか、そういうことで本を読みたい人たちが来る場所とっていただけども、今からの時代もしかしたら違うのかもちょっと思ったんですね。幅広く、地域の中の居場所をというのを図書館が担うところもありますし、それにはやっぱり子どもの世代、そしてゆっくり読みたい人の世代、色んな人のことがあるので、課題が沢山あると思うんですけども、最終的にそういう図書館を目指していくのが、これからの図書館なのかなとちょっと思いました。

(副会長) 「賑やかにしていいゾーン」と「静かな読書ルーム」というのを分けて作っている高知県高知市の「オーテピア高知図書館」とか。今新しい図書館はそんなふうにしていますね。

(委員) だから、国からの交付金もあるから、そういう図書館はこの10年間で100ヶ所増えたそうですね。その番組で言っていましたけど。だからそういう図書館を目指すところが増えてきていると言っていました。昔と変わってきたのかなと。

(会長) まちづくりの中心に図書館を置くという自治体はですねやっぱりにぎやかな図書館を目指していますね。人が沢山集まって交流する、新しいものが生まれると。じ

やあ静かに本を読みたい人はどうするのかというのがずっと前からあるんですが、よく考えたらですね、静かに読みたい人が来られる時間帯と、賑やかで小さい子どもが来られる時間帯は意外と違うんですよ。その時間帯をうまく使い分けているところとかですね、静かに読めるスペースとかを確保するとかいうところもあります。私が実際見に行った東京の図書館は、まちづくりを中心に図書館を置いてまして、1階は真ん中にカフェがあるんです。周りに研修室があります。研修室で色んな講座があっているのですが、あえて壁が無いんですよ。壁が無いので、カフェに来ている人たちが、何があっているのだろうちょっと覗いてみたいなど。そしてカフェにいる人も騒ぐわけじゃありませんから、講座の邪魔にもならない。静かに読みたい人はどうするか、それはフロアを変えます。やはり静かに読めるような場所も確保しなきゃいけないと。上手なところはそういつてあったのですが、それは施設の問題等もありますので、相当本腰入れないと出来ないことでもあります。ただ今の新しい考え方としてはそういう方向があります。

色々な運営方針は令和8年度ではとても出来ない事でもありますが、ただ将来的なことを見越して、色々な考えを出し合っていくことは大事なことだと思います。

私ちょっと小さいことですが、新しい読書スタイル「電子図書館サービスを推進します」の中に、電子図書館体験会と書いてありますね。たしか令和7年度でも書いてあったんですよ。令和7年度は電子図書館体験会を実施されていますか。

(事務局) 駅前のイベントで電子図書館体験会を実施しました。

(会長) そうですか。実際やってみたら違うとかですね、やってみても人が集まらないという時もありますけども、いかがでしょうか。じっくりこう読ませていただくと色々な感想も出て来るんですね。どうぞ。

(委員) 今皆さんの話を聞いていて、開かれた図書館ということころを最終的に目指すのは非常に素敵だなと思います。現状は難しいところではありますので、本当に長時間小さいなお子さんを連れてご家庭のお母さん達、お父さん達は図書館に寄り難い方は、ちょっと電子図書館等を活用して、そこで本を選んで、それで借りる手続きをしてもいいし、実際図書館に行って手に取って借りる手続きして帰ってくるとか、色々組み合わせていくような活用法が、今のところはそういうところがあるのかなと感じております。学校はですね非常に学校図書館の蔵書も限られていますし、ほしい本がなかなか無いという時に、図書館の本を学年と教科に併せて貸して頂けるのは非常に助かっていますので。そういった連携もしつつ、「図書館に行けばもっと沢山の情報があるよ」「本があるよ」と日頃から子ども達と手に取って体験しながら、図書館に行くということを当たり前にしていくと。小学校の校区が違うんですけど、図書館に行きづらいところはあるんですけども、お家の人といっしょに行けるようにですね声掛け出来るなと思っておりました。

(会長) ありがとうございます。先日図書館に行った時、確か小学校の方が図書館に来

られていて、あれは事前の打ち合わせですかね。図書館も、図書館の近くの子ども達は来られますけれども、子どもだけでは行き難いとか、そういう見学とかの体験も含めて、また利用しようと思っていただければと思います。

(事務局) 年間を通して小中学校や保育所などから図書館の見学を受け入れています。

(会長) 私の方から1点ですね、「古賀市子ども読書活動推進計画」が、その次の分が始まりますよね。私あの計画書を見ていつも思うのですけども、5年計画の5年目で一体どうなるのかというのがあんまりわからないですね。色んな取り組みをしますというのはわかるのですが、5年後にどういった所を目標にするのかという具体的な到達の目標ですね、それが到達出来ないこともあります、ある程度青写真というものですかね、そういったことを次期の計画の中でお示ししていただけるとより身近なものになるかと思います。運営方針についてはよろしいですか。なければその他に入りたいと思います。

#### 4) その他

(会長) 事務局からその他の事項はないとのことでしたが、委員の皆様から何かありましたらどうぞ。

(副会長) 私はある市の総合図書館の話が今気になって、それで新聞記事持ってきました。図書館は誰でも入れる開かれた場所でもいい場所ですけど、誰でも入ってくるが故に、こういうことが起きてしまうので、どうやって対策をしておくのかというのが大切なことだろうと思うんです。

その1つの失敗例としてですね。私若い頃に、職場で要は図書館って道路と一緒になんですよ。こうやって一生懸命勉強しているじゃないですか。そして利用者がここにハンドバッグをかけて、それを男の人に取られたんですよ。それで気がついた若い女の人が追いかけていたので、私も何でその人が走っているかわからないんですけど、彼女が走っているのは大事が起きたからだって思ったので、一緒に走って道路のところで捕まえようとしたら、後ろから来た男の人がタックルして、警察に通報して結果よかったんですけど。その後警察に言われたことは「これからは絶対に追いかけてはいけない。今回は偶々その犯人を捕まえられて、よく怪我せずですんだけれども、絶対に今後捕まえようと追いかけないで下さい。」と言われました。だから、今は状況が色々違うかもしれないけれど、そういうことも含めて、図書館の安全を考えておかなければならない時代になったのかなと新聞記事を見て思いました。

(館長) 私どももそのニュースがあつてすぐ内部で情報共有致しまして、翌日の朝礼で、職員に対してこういうことがあつたと説明しました。特にこういうことがあります、模倣されるような方もいらっしゃる場合があるので、やはり早目に内部で注意喚起をしておこうと、内部で情報共有を致しまして、もし気になるような来館され

た方がいらっしゃったら、早めに職員同士で情報共有しましょう、教えて下さいということと、あと図書館の中にも、そういう心構えとか、何かあった時の詳しい本がありましたので、その部分を抽出しまして、その部分だけカウンター2ヶ所にこういう場合はこういうふうに対応して下さいという紙を二部用意させて頂いて、内部で回覧をさせて頂きました。あと、私ども警備員がいないものですから、私達です、時間をはっきり決めてるわけではないんですけど1時間か2時間おきに巡回をするようにしております。現状、特に気になるようなことはあっておりませんので、引き続きですね当面はそういう形で対応していこうかと思っております。以上です。

(会長)

この事件についてはですね、ちょっと関心があります。実際ですね、何かあった時にやっぱり右往左往してしまうんですね。どうしたらいいのかわからないと。だから、緊急の事態があった時に、どういう動きを職員の方がされるのか、利用者の方に声を掛けるのか、あることを前提に想定して、動きを考えておかないといけないと思います。これまで図書館は善意の方がいらっしゃるだろうと、本が好きな方がいらっしゃるだろうと思っていたら、そうではないということですね。今回は刃物を持った事件でしたが、それ以外の色々な事件は実際起きているんですね。利用者の方の中には激昂されたりする方もいますし、利用者同士のトラブルもあります。古賀市は意外とない方だと思います。ただ今後ないとも限りませんから。あった時にどうするかとあらゆることを想定しておかなきゃいけないと思います。今回の事件は、ちょうど閉館間際に、総合図書館は平日夜8時まで開館しています。ちょうど夜7時から8時あたりといえばもう利用者の方は限られるんですね。しかも図書館が街の中にあるわけじゃなく離れていますから。明らかに人通りが少なくなりますから、そういう時間体はなお一層気をつけとかないといけない。一番利用者が多い時間は以外とないんですよ。だからそういう時間帯も含めてやっぱり用心が必要だなと思いました。思わぬことですね、最初皆さんが思ったよりも事態が大きくて。取り押さえた警備の方も、「刃物を持っているとは思わなかった」ということを言ってらっしゃいましたよね。刃物を持っているとわかった時には、中々大変だったろうと思います。

ちょっと安全面のことがありました。ではその他のことでも結構ですが、時間も終わりになってきましたが。

それではですね。今年度の取り組み状況について意見交換しました。また来年度の運用方針についてもご説明頂きました。大分色んな形で具体的に共有出来たんじゃないかと思っております。来年度またですね、4月から色々ありますが、新しい取り組みをしていただきますので、是非皆さん来て頂いて、図書館の活動を知り広げていただければと思っています。

それでは、進行等を事務局にお返しします。

(事務局)

事務局から連絡事項

- ・今年度は今回で終了。
- ・本会議の会議録の内容確認・校正について。

毎回委員 2 名に会議録の内容確認・校正してもらい、確定分を後日委員に送付する。

## 5 閉会のことば